

【公報種別】特許法第 17 条の 2 の規定による補正の掲載

【部門区分】第 1 部門第 1 区分

【発行日】平成21年3月5日(2009.3.5)

【公表番号】特表2005-505290(P2005-505290A)

【公表日】平成17年2月24日(2005.2.24)

【年通号数】公開・登録公報2005-008

【出願番号】特願2003-535528(P2003-535528)

【国際特許分類】

C 1 2 N 5/04 (2006.01)

A 0 1 H 5/00 (2006.01)

A 2 3 F 5/24 (2006.01)

C 1 2 N 5/10 (2006.01)

C 1 2 N 15/09 (2006.01)

【F I】

C 1 2 N 5/00 Z N A F

A 0 1 H 5/00 A

A 2 3 F 5/24

C 1 2 N 5/00 C

C 1 2 N 15/00 A

【誤訳訂正書】

【提出日】平成21年1月15日(2009.1.15)

【誤訳訂正 1】

【訂正対象書類名】特許請求の範囲

【訂正対象項目名】全文

【訂正方法】変更

【訂正の内容】

【特許請求の範囲】

【請求項 1】

ガラクトマンナンを産生するトランスジェニックコーヒー植物細胞であって、- D - ガラクトシダーゼ遺伝子由来の、mRNA のアンチセンスであるリボ核酸又はその一部に転写される核酸の導入により、 - ガラクトシダーゼ活性の内在レベルが低下し、ガラクトマンナンのガラクトース枝分かれが増加するように改変した上記トランスジェニック コーヒー植物細胞。

【請求項 2】

- D - ガラクトシダーゼ遺伝子由来の、mRNA のアンチセンスであるリボ核酸又はその一部に転写される核酸が構成的又は誘導プロモータの制御下にある、請求項 1 に記載のコーヒー植物細胞。

【請求項 3】

前記プロモータがコーヒー c s p 1 プロモータである請求項 2 に記載の植物細胞。

【請求項 4】

請求項 1 ~ 3 のいずれかに記載の植物細胞を含有する、コーヒー植物。

【請求項 5】

請求項 4 に記載のコーヒー植物由来のコーヒー豆を使用する段階を含む、可溶性コーヒーの調製方法。

【請求項 6】

請求項 4 に記載の植物由来のコーヒー豆を使用する段階を含む、コーヒーの溶解度を増大させる方法。

【請求項 7】

可溶性コーヒーを調製するための、請求項4に記載のコーヒー植物から得られた豆の使用。

【誤訳訂正2】

【訂正対象書類名】明細書

【訂正対象項目名】0012

【訂正方法】変更

【訂正の内容】

【0012】

リボ核酸、
- D - ガラクトシダーゼ遺伝子によってコードされる mRNA のアンチセンス、又はその一部をコードする核酸は、構成的又は誘導プロモータの制御下にあることが可能で、したがってアンチセンス RNA のレベルを適切に調節することが可能である。しかし、いかなる場合においても、アンチセンスコピーのレベルは、リボソームに接近できる - D - ガラクトシダーゼポリペプチドをコードする mRNA コピー数を減少させるために十分高くなければならない。